能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト

細谷　夏実　教授
（社会情報学部　社会情報学科　環境情報学専攻）

１．はじめに

石川県能登半島は、新潟県佐渡市と共に、2011 年に我が国で初めて国際連合食糧農業機関（FAO）により「世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage System: GIAHS）」に認定された地域です。農林水産省ホームページによると、「世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）」であるとされています。

私たちのゼミでは、この世界農業遺産に認定された貴重な地域である能登半島のうち、奥能登と呼ばれている石川県鳳珠郡穴水町とその隣の能登町で 2015 年から活動を始めました。これまで主に穴水町において、里海里山保全につながる活動や、子どもたちに海の大切さや楽しさを伝える海育（うみいく）の活動などを行ってきています。具体的には、穴水町の鹿波椿保存会などと協同して行った、海沿いに自生する椿を活かした「鹿波椿茶」の商品化と販売（第 10 回いしかわエコデザイン賞 2020 で銅賞を受賞；現在、穴水町のふるさと納税返礼品となっています）や、子どもたちとの「うみいくカード」作成などの活動です。

また、このようなゼミの活動がきっかけとなり、本学と穴水町は 2018 年に包括連携協定を締結し、2 度（2021 年、2024 年）の協定更新を経て、現在も三期目の連携を継続しています。

一方、2024 年元旦に発生した能登半島地震では、穴水町、能登町は甚大な被害を受けました。そのため、震災以降は地域の復興状況を逐次把握しながら、できることを考えつつ活動を行ってきています。今期（2025 年度）は、1）オンラインなどを活用した子どもたちとの活動、2）大学祭での能登展における能登地域の紹介や復興状況に関する情報発信及び物産販売による支援、を行うことを計画しました。

２．活動内容

1）子どもたちとのオンライン交流（2025 年 7 月 15 日）

現地の小学校は震災後の復興途上にあり、これまでのように学生たちが小学校に出向いて一緒に活動するといったことが難しい状況にあります。そこで、「うみいくカード」作成などの活動を協同で行ってきた小学校とオンラインで交流を行うことを計画しました。

具体的には、7 月に現地の小学校 3･4 年生 12 名と、4 年ゼミ生 10 名が、約 40 分間オンライン（Zoom）で交流を行いました。子どもたちは一人一人が、地元の特産品であるカキ、桜の名所として有名な能登鹿島



オンライン交流の様子

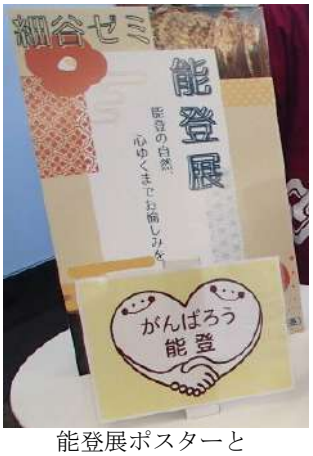
駅、そして学校の前に広がる海でイルカが見られることなど、地域の魅力や小学校での活動の様子などについて PowerPoint を使いながら紹介してくれました。その後、学生が発表内容に対して質問をし、子どもたちからも学生に質問をしてもらい、今後も引き続き交流を続けることを確認して終了しました。

当日の交流の様子は地元の新聞でも紹介され、子どもたちからは「大学のことが知れて楽しかった」といった感想があったとのことです。

2)「能登展」での能登の紹介と物産販売（2025 年 10 月 18・19 日）

ゼミでは 2016 年から毎年、大学祭で「能登展」を出展し、ポスター展示による能登での活動紹介と物産販売を行ってきています。

今回は、本学共同研究プロジェクトの一環として夏休みに震災後初めて現地を訪れたゼミの学生たちが、「あなみずスマイルマルシェ」で仮設店舗を営む衣料品店の方や、牡蠣の養殖に携わる漁師さんなどから伺った被災時の状況やその後についてのお話、また、鹿波椿保存会の会長さんのご指導で鹿波椿茶の製茶体験をさせていただいたことなどについて、それぞれがポスターを作成し展示しました。さらに、穴水高校 3 年生が、震災を経て伝えたいことをまとめて制作した「穴水高校防災動画」も紹介しました。



能登展ポスターと
「がんばろう能登」クッキーのロゴ

物産販売については、昨年に引き続き、穴水町と同様に本学と包括連携協定を結んでいる北海道美瑛町、広島県世羅町との 3 町協同で、A 棟 3 階入口のピロティ部分で行いました。毎年商品を提供してくれている椎茸農家、菓子店、海洋深層水施設などからの商品の他、ゼミで商品化した「鹿波椿茶」も販売しました。毎年出展、販売を続けていることで能登展にリピーターとしていらしてくださる方も多く、用意した商品は 1 日目で大半が完売となり、売り上げを地元に還元することができました。


穴水町の法被を着て販売します


子どもの手のひらほどの大きな椎茸は毎年すぐ完売

3．まとめ

2025 年度は、震災後初めて学生が現地に訪れて活動することができ、大学祭での出展も含め、能登に関するさまざまな情報発信ができました。

今後も地域の方たちとの連携を深め、学生と共に能登の魅力の発信、子どもたちへの海育活動、さらに復興支援として少しでも役に立てるような取り組みを行っていきたいと考えています。